

能美市史編さんだより

第 2 号
令和 5 年(2023 年)10 月 27 日

第1回 市史編さん委員会 8/18(金)での委員の皆様が発言より(要旨)

【前田 英夫 委員長】

私は、長年にわたり、国史跡の秋常山古墳群をはじめとする西山古墳群などの整備に関わってきました。古墳整備や文化財保護を含む能美市の歴史に対して、強い思いを抱いています。旧寺井町時代には、『寺井ふるさとビジュアル事典』の作成に関与し、学校の授業に活用する施策を推進した経験もあります。現在の編纂事業では子どもたちが、能美市がどのような地域で、どのような特徴を持ち、誇れる古墳や九谷焼がある地域と認識できるような図説が作られ、学習に活用されることを望んでいます。

【平野 優 副委員長】

能美市は、一見すると小さな町に見えるかもしれませんが、その実態は全く異なると思います。この小さな町からは、多士済々の人材が輩出されており、個性豊かな人材を各界に送り出してきました。私の見るところ、その精神性と手取川が育む独自の気質が財産となり、この地の大きな特色となっていると感じます。そうした情報を市民の皆様伝えることで、小さいながらも光り輝く能美市のダイナミックな活力を、市史編さんを通じて感じていただきたいと思います。

【竹本 里奈 委員】

私には6年生と3年生の子供が2人います。学校教育や地域の方々、おじいちゃんやおばあちゃんの影響で、子供たちは地域のことを好きになる機会が多いと感じています。彼らはこれからこの能美市で学び、未来に向けて世界に飛び立っていきます。ふるさとを愛し、他の場所も知ることで、最終的には再び能美市が良いと思ってもらえるように育てたいと願っています。市史という広い視点や専門的な観点では難しいかもしれませんが、私の視点から見た意見を述べていきたいと思っています。



【辰巳 平一 委員】

私は一市民として、今回の編さん事業に参加したいと考えています。図書館に足を運び、資料を活用して、その時々課題について学ぶために、またこれからの生き方や考え方の基盤となる知識を得るために、今回編さんされる本を利用したいと思っています。また、そうした価値のある本ができることを期待しています。委員として、可能な限りの協力をしたいと思います。

【本 裕一 委員】

私は、この地域が実に素晴らしい場所だと確信しています。そして、その事実を次世代にしっかりと伝える必要があると考えています。現代では他の地域との競争が存在します。就職や定住を考える際、自分たちの故郷を愛し、その地域について深く学ぶ機会が、選ばれるための重要な要素となります。仕事や事業をこの地域で続けたいと考えるためには、歴史は過去の事柄ではなく、現在に活用でき、地域振興に利用できるものであるという視点を持つべきだと思います。そういった視点で、市史編さんや市史の活用方法を考えていくつもりです。



【外山 ひとみ 委員】

私の職業柄、常に子供たちの視点から物事を考えています。能美市を愛し、未来を担う子供たちの立場を考えた時、この度の市史編さんの取り組みは非常に意義深いと感じています。特に子供たちが手に取りやすい図説編を最初に編集する方針になり、嬉しく思い安心もしました。図説があるからこそ、市史は未来を担う子供たちにとって意味を持つと思っています。子供たちが手に取り、写真などから歴史を身近に感じることができる市史となることを願っています。

【中矢 進一 委員】

私は九谷焼美術館の館長として、九谷焼美術館改革に取り組んでいます。具体的には、「教育施設や九谷焼の普及施設として、それぞれの機能をしっかりと発揮できるよう改革すること」を心掛けています。着任以来、九谷焼資料館を美術館とし、浅蔵五十吉記念館や体験館、職人工房なども美術館の一部と位置づけ、それぞれの役割に応じて改善することができました。九谷焼は能美市の重要な文化遺産であり、今回計画された『資料編 特論編「九谷焼編」』が、市史としてまとめられることができれば嬉しいことです。



【谷田 好子 委員】

女性協議会は、戦後間もない頃、村落の時代から存在する団体です。今回、市史編さん委員として任命されたことは、個人的にも女性協議会としての歴史や活動を再認識する機会だと考えています。能美市としての20年間、様々な出来事が現在につながっており、完成した市史にふれて、私たちが住む能美市をより深く理解し、これまで以上に愛着を持っていければと願っています。デジタル化が進行し、従来の図書文化も変わりつつある中、様々な工夫が必要ですが、その一助となれるよう努めます。

【清水 和貴子 委員】

能美市には多くの外国人の方々が暮らしています。彼らや彼女たちとの交流を通して、「能美市が大好きです」と言ってくれる方が非常に多いと感じます。今回の市史編さん事業が、在住の外国人の方々がさらに能美市に愛着を持つきっかけになればと願っています。また、国際交流や多文化共生の観点から見て、在住の外国人の方々に寄り添いながら、これからのまちづくりに活用される市史編さんのお手伝いができたらと思います。

※上記発言要旨の編集責任は「市史編さん室」です。

お知らせ

市史編さんに関するお問い合わせと史料の情報提供について

- 市史編さんに関する問い合わせは「能美市史編さん室」まで
- 資料に関する情報をご一報下さい（書籍、文書、写真、図録等どんなものでも構いません）



能美市教育委員会 ふるさと文化財課 市史編さん室

- 〒923-1121 石川県能美市寺井町レ8 3 番地 8（能美市立寺井図書館2階）
- TEL 0761-41-5581 ●FAX 0761-57-8401
- E-mail mc.honda@city.nomi.lg.jp（担当 本多）

